

# 南区 地域情報発信 インタビュー

南区の宝となるモノや話題、地域で活躍している方をピックアップ!

## 全国初の公立教育ファーム「アグリパーク」真柄園長にインタビュー

今年6月28日、全国初の公立教育ファームが開園しました。長年、教職に携われ、教育者としてキャリアを積まれた真柄正幸さんが園長に就任されました。教育ファームについて、真柄園長にお話をお聴きました。



作物の生育について説明を受ける小学生

**Q** アグリパークとは、どのような施設ですか。また、教育ファームのねらいは何ですか。

**A** アグリパークは、本格的な農業体験学習を提供する教育ファーム、農業の6次産業化支援及び就農支援の三つの機能を持った施設です。教育ファームは、農業体験学習を通じて農業に対する理解を深め、郷土愛を育むことをねらいとしています。特徴としては、文部科学省が定める学習指導要領に基づき、学校のカリキュラムと連動した農業体験学習を行っていることです。

アグリパークは、様々な農業体験をすることができる施設や宿泊施設を完備し、子どもから大人までがじっくりと農業体験学習を行うことができます。

**Q** 教育ファームの効果をどのようにお考えになられていますか。

**A** 教育ファームでの農業体験学習により、農業のすばらしさに気づき、命や人との絆を大切に、ふるさと新潟を愛し、誇りに思う子どもたちが大勢出てくることを期待しています。また、地域の農業・食文化に興味を持ち、食の大切さを理解する子どもたちが大勢出てくることを願っています。

**Q** 教育ファームに関する今後の展望をお聞かせください。

**A** 教育ファームを担当する者として、来園者の方々から農業体験学習を通じて新潟市を代表する農作物への理解を深め、ふるさと新潟のすばらしさを実感していただく、「アグリパークへ行ってよかった」という満足感を持っていただく施設運営をしていきたいと考えています。そのためにも魅力ある農業体験学習プログラムの開発をするとともに農業体験学習を支援するインストラクターの資質・指導力の向上に努めていきたいと考えています。



初めての搾乳体験!!



農業の6次産業化の取り組み

## JA新潟みらいしろね果樹部会 西洋なし専門部長 青山さんにインタビュー

新潟県果樹振興協会西洋なし部会長及びJA新潟みらいしろね果樹部会西洋なし専門部長をされている青山淳彦さんに、南区を代表する果実、西洋なし「ル レクチエ」についてインタビューいたしました。



**Q** 青山さんの現在の農業経営規模についてお聞かせください。

**A** 水田2ヘクタール、果樹1.6ヘクタール（うち、ル レクチエ30アール）を栽培しています。

**Q** ル レクチエの栽培は難しいと聞いていますが、産地を維持するうえでどのようなことに気を配っていますか。

**A** 近年、発生が顕著な褐色斑点病の広がりに危機感を覚えています。ル レクチエの栽培が新潟に特化しているため、病害の克服に苦勞しています。また収穫期が遅いため自然災害を受けるリスクが高いことも指摘されます。品質の安定化も産地として大きな課題であり、農家が栽培上の問題意識を共有しながら解決のために統一した手法を取らなければなりません。生産者のまとめ役として、そのような点に苦勞しています。



ル レクチエの収穫

**Q** 「ル レクチエ」にかける青山さんの想いや関係機関に対する要望をお聞かせください。

**A** ル レクチエのブランド力を高め、未来につながる産地づくりを進めるためには社会変化や消費者のニーズに即応した柔軟な発想・変革が必要です。ブランド力の向上とは、お客様との信頼関係を築くことです。

新潟の冬の味覚の一つとして、ル レクチエをアピールし、活力のある産地づくりを進めるためには、生産者すべてが課題を共有することが課題解決のエネルギーになるものと確信しています。産地があってこそ生産者が生き残れるのです。27年7月、「全国西洋ナシ研究大会」が南区で開催されます。この機会をとらえて、全国に新潟の誇る「ル レクチエ」を発信していきたいと思っています。このためには、行政の力強い後押しを得て、リーディング産地を目指したいと考えています。



1つ1つ優しく包装して箱詰めします



芳醇な香りととろけるような舌触り